第20回 やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議

議事要旨

日 時：令和6年5月29日（水） 13：30～15：30

場 所：八代市役所 301・302会議室

■やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議 委員（敬称略）

八代市	副市長	福島 誠治（会長）
八代市市政協力員協議会	会長	福田 民男
八代商工会議所	会頭	竹永 淳一
八代市商工会	会長	野村 浩一
八代森林組合	代表理事組合長	黒木 信夫
八代漁業協同組合	代表理事組合長	平田 正一
有限会社 神園交通	代表取締役	神園 久二子
メルシャン株式会社八代工場	工場長	藤田 康範
一般社団法人DMOやつしろ	事務局長	永田 浩基
熊本県南広域本部	総務部長	宮川 和巳
八代高等学校	校長	吉永 武幸
八代市教育委員会	委員	早田 蛍
株式会社肥後銀行 八代市役所支店	支店長	山下 たまき
連合熊本県南地域協議会	副議長	谷口 靖
株式会社 エフエムやつしろ	総務経理担当	宮田 明美（代理）
八代市保育協会	書記	木浦 由美子
八代港港湾振興協会	会員	宮本 美代子
株式会社 きらり. コーポレーション	企画広報部長	川越 真也

（欠席）

八代地域農業協同組合	代表理事組合長	山住 昭二
日本郵便株式会社 鏡郵便局	局長	樹本 有市

< 配付資料 >

会議次第、出席者名簿

資料 1 やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議設置要綱

資料 2 やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議における効果検証スケジュールについて

資料 3 令和 5 年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業に係る
効果検証資料

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 会長挨拶

4. 説明（やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議について）

- ・資料 1、2 説明（企画政策課）

5. 議事

令和 5 年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業に係る効果検証について

- ・資料 3 説明（各課）

- 3-1 DXによる八代圏域ツナガル推進事業
（商工政策課）
- 3-2 ウェルネスフードを核とした商流拠点づくりプロジェクト
（フードバレー推進課）
- 3-3 スマート農業技術の導入を軸とした担い手不足の解消と農業所得の向上事業
（農林水産政策課）
- 3-4 アフターコロナを見据えたアウトドアツーリズム振興による関係人口の創出
（観光振興課）
- 3-5 デジタル医療 MaaS 推進事業
（健康福祉政策課）
- 3-6 八代の儲かるアサリ漁業の V 字回復に向けた産学官連携プロジェクト
（水産林務課）

- ・本資料は、令和 5（2023）年度に国のデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用して実施した 6 つの事業について、行政内部において効果検証を行い、事業実施による地方創生への成果や課題、それらを踏まえた今後の事業の方針について取りまとめたもの。
- ・各事業に関する質疑や意見交換を行ったうえ事業評価を行う。

— 委員からの主な意見 —

■DXによる八代圏域ツナガル推進事業

・オシゴト図鑑について、デジタルブックになってから、目に触れる機会が少なくなった。再度冊子での製作の検討をお願いしたい。

・移住定住問題は特に行政だけでは難しく、官民が連携しなければ解決できない。もう少し市民が参画できるような移住定住問題への取組ができないか。

■ウェルネスフードを核とした商流拠点づくりプロジェクト

・海外の輸出促進事業について、海外輸出を行っている企業として、現地での継続的な認知に向けた具体的な取組などの情報提供と、八代の産品やブランドのPRに向けた連携をお願いしたい。

・海外での販売会（フェア）について、案内の対象を販売店などへも広げ、現地での活動期間も1か月程確保してはどうか。過去の分析と課題解決への対策も必要。

■スマート農業技術の導入を軸とした担い手不足の解消と農業所得の向上事業

・農業塾など催しの案内について、農業従事者以外にも幅広く共有をお願いしたい。

■アフターコロナを見据えたアウトドアツーリズム振興による関係人口の創出

・アウトドアステーションやつしろについて、今年3月にオープンしたところで周知が十分ではない。今後、インバウンド向けへの展開なども検討が必要。

・アウトドアステーションやつしろのレンタサイクルについて、キャンプ客向けに数時間の周遊用として活用してはどうか。

■デジタル医療 MaaS 推進事業

・坂本町が住み続けられる地域であるよう、坂本町の現状や住民の実態に合わせた、より前向きな取組をお願いしたい。

・現在の坂本町の復興においては現状で十分だが、今後の防災への取組としては、再度同様の災害が発生した際の迅速な運用のシミュレーションなど新しい展開が必要。

■八代の儲かるアサリ漁業のV字回復に向けた産学官連携プロジェクト

・安定的なアサリの生産のためには、漁場の整備、爆発的な稚貝の発生が必要であり、今後の覆砂の調査や効果に期待している。

■その他

・企業や市民としても様々な情報共有のツールがあるので、市の各事業やイベント等の周知にも活用してはどうか。

★6事業の評価について、原案どおりで一同了承。

6. 閉会